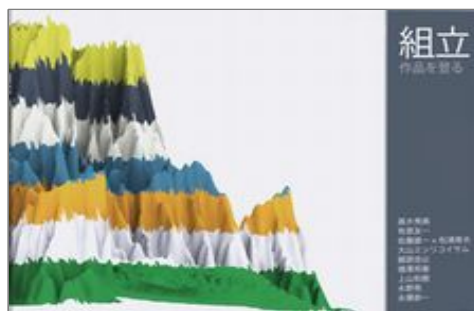




組立 n.01 知覚の臨界
縦25センチ横21センチ、本体1600円
ISBN978-4-9901830-9-7
2010年刊

上田和彦、境澤邦泰、阪根正行、佐藤雄一
柴田晃宏、田中秀和、永瀬恭一、林道郎
星野太、松浦寿夫



組立 n.02 作品を登る
A5横、本体1400円
ISBN978-4-9906359-0-9
2012年3月刊

- ・高木秀典 制作ノート
- ・有原友一 「画面」の前で一作品を登る一
- ・佐藤雄一×松浦寿夫 『「固有値(Eigenwerte)」としての支持体を自己生成する』可能性
- ・大山エンリコイサム 絵画とスピード違反
- ・郷原佳以 フレンホーフエル効果
- ・境澤邦泰 絵画と視線の行方
- ・上山和樹 主体かの失敗から、触媒としての生成へ
- ・水野亮 展覧会レビュー×2本 (+「写真を見ること」についての私論)
- ・永瀬恭一 脱美学ーブローケンモダンの諸相

「組立」について

展覧会を、思考の組立作業として捉え直す試み

- ・異なるものが接点を持った状態を「組立」と呼ぶ。
- ・交流はされない。交渉がされる。
- ・同意の捏造はされない。違いの分析がされる。
- ・組立てられたものは解体される。

作品とその展覧会とは、それ自体が思考の組み替え装置となりうる筈です。そして、それは、他のあらゆるジャンルとは異なり、芸術の現場に特有の形式であると思います。設定したテーマを素材として、出品者それぞれの作品を「隣り合わせてみる」。

そこで見えてきたそれぞれの差異・断層を元に、改めて美術、あるいは芸術を捉え直す契機としてゆく。そのためのツールが「組立」という試みです。

「組立」が断層を生み出すために隣り合わせてみる素材は、作品だけではありません。言語は美術作品を単なる消費物とせず、繰り返し再検討させるために必須なものです。

「組立」は公開で行われる対話企画の他、ペーパーメディアの発行などを通じて、出品者のみならず会場を訪れた人々に多くの発話を促します。

それらは一つのゴールに収斂するものではありません。むしろ会場を起点とした様々なベクトルを産みだしたいと考えています。(組立 ホームページ)

ご注文はFAX、電話、メールにて承っております。

ツバメ出版流通(株) FAX03-3721-1922

TEL03-6715-6121
info@tsubamebook.com
www.tsubamebook.com



貴店印	組立		http://kumitate.org ツバメ出版流通取扱品 返条付注文扱い	
	冊	組立 n.01 知覚の臨界 ISBN978-4-9901830-9-7	縦25センチ横21センチ、本体1600円 2010年刊	
ご担当	冊	組立 n.02 作品を登る ISBN978-4-9906359-0-9	A5横、本体1400円 2012年3月刊	様